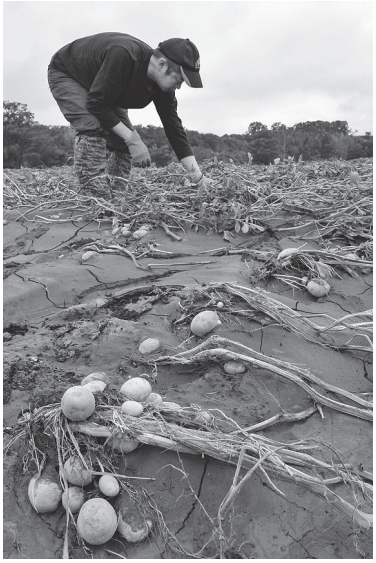

芽室川が決壊して土が流された畑ではジャガイモが露出している（４日、芽室町南２線）

水が引いた後は、住宅や倉庫に大人の膝下ほどの深さまで流れ込んだ土砂を友人や近隣農家の手を借りて除去している。芽室川の堤防が決壊したのは一度ではなく、「堤防を改修し、河川の道筋も考えた護岸工事をして、川の決壊が二度と起きないよう修繕してほしい」とかみしめるように話した。

札内川と戸蔦別川が合流する帯広市南部の中島町。氾濫により川に近い畑約30ヘクタールが被害に遭った。「ジャガイモ、ビート、豆の畑が流されて何も無くなった」。ＪＡ帯広大正の吉田伸行組合長は深いため息をついた。

露出したビートが点在するのでかろうじて畑と想像できるが、流木と土砂で河原のような光景が広がっていた。農家の１人は「『畑』に戻るまで何年かかるのだろうか」とぼうぜんと見つめた。

【緊急ルポ　農業被害現場を行く（下）】

2016年９月５日

清水町石山地区　牛舎、子牛ごと濁流に　40年の蓄積崩壊　廃業も視野

基礎部分がえぐり取られ、使えなくなった牛舎と岩田さん（５日）

牛舎が使用不能になり、やむを得ず農機につないだ子牛

【清水】原形をとどめないほど大破した牛舎、濁流に流されて姿を消した牛、地面がえぐられてむき出しになった大地。「当たり前のように広がっていた光景が一夜にして変わってしまった。今は搾乳ができない。この先も酪農を続けていけるのか…」。町清水419ノ46の酪農家岩田宏さん（57）は、言葉を詰まらせた。

台風10号が十勝に接近した８月30日。岩田さんが住む石山地区でも夕方から激しい雨が降り続き、自宅から数百メートル先に見える小林川の水かさは猛烈な勢いで増していった。「牛の鳴き声をかき消すかのように、川がゴーッと鳴る音しか聞こえなかった」。町からの避難指示はない。停電まで重なり、「嫌な予感がして寝付けなかった。闇夜の中を懐中電灯で照らし、何度も川の様子を見に行った」と振り返る。

翌朝、岩田さんの眼前には変わり果てた牧場の姿があった。搾乳室を備えた牛舎が全壊し、子牛専用の牛舎も半壊。作業用のトラクター２台が流され、汚水をためるスラリータンクは元の位置から100メートルほど下流に向かって押し出された。川からあふれ出た土砂が堆積し、地形が変わった。橋に架かる山林道も崩れ落ちた。そこには目を疑うような惨状が広がっていた。

高台にある自宅や75ヘクタールを有する牧草地には幸い、目立った被害はなく、台風に備え牛舎から離していた母牛は75頭全てが無事だった。だが、牛舎の中で休ませていた生後間もない２頭の子牛が濁流にのみ込まれた。「まさかこんなことになるとは。助けてやれなかったことに悔いが残る」